

<保育者> 5歳児 ふじ組 担任 三岡 博美教諭 補助 鈴木 加奈教諭

<研修テーマ> やってみたいという気持ちを育てる

- <ねらい>
- ・友達と誘い合いながら、繰り返し身体を動かして遊ぶ。
 - ・友達と同じイメージをもちながら、遊びを進める楽しさを味わう。

朝一番の「感動体験」!

たくさん子どもたちが、たらいの周りに集まっています。子どもたちが見つめるのは、10cmを超えるであろう大きさの「モクズガニ」。昨日は触れなかったけれど、今日は触ってみようかな…。その瞬間、カニが動いた!「きゃー!!」触った子も、周りで見っていた子も、一緒になって声を上げます。カニが予想を超える動きをするたびに、園庭に大きな歓声が響きました。命ある生き物を目の前に、子どもも大人も目をキラキラ輝かせて、心が動く、まさに感動体験でした。



さわろうかな…どうしようかな…

やってみたい! ~にここに遊園地~

子どもたちで話し合い、準備した遊園地。好きなものを集めた遊園地は、どこからやっても、どれだけやってもいい遊び場所。保育者の姿を見て、フラフープに挑戦する子も…。一本下駄で、新たに描かれた長いコースを進んだり、鉄棒に何度も取り組んだり、近くにいる友達と一緒に、保育者と一緒に、存分に楽しみました。「あっ、砂場で遊んでなかった!」砂場でも、保育者と一緒に、残り時間を惜しむように遊び込みました。



一本で
やってみよう
かな



まるで本物!? ~たのしいお店屋さん~



この
数珠玉で
作った
プレスレ
ットを
とるぞ!

子どもにとってのおもちゃは、クレーンゲーム。ボタンを押して、クレーンが動くイメージが再現されていました。秋の実を使いながら、景品づくりを楽しむ子もいました。

回転するテーブルの上には、色々な種類のお寿司やうどん。廃材だけでなく、リアルな容器等があることで子どもたちの意欲がさらに膨らみました。

事後研修会 (講師: 静岡大学教育学部 教授 田宮 縁氏)

- ・グランドデザインは、シンプルに、見てすぐわかるようなものにした。重要なこと以外をそぎ落とす。そして、毎日、グランドデザインに示された目標と今日の子どもの姿とを照らし合わせていく。
- ・長期計画としては、発達の節目を捉えることができる「期の計画」が一番大切である。また、日誌を書くことでそれが根拠となり、「週の計画」のねらいが決まるため、日誌があると週案が理解しやすい。
- ・子どもの感動体験を支えているのは、周囲で共感する人である。また、保育者が楽しそうに遊ぶことで子どもも遊びを深めていた。やはり、人的環境が大切である。
- ・絵や写真だけで、イメージを共有することは難しい。まずは体験が大切で、一緒に体験していればさらによい。



主となる手立てである「感動体験」について、子どもの姿で語り合いました。